

令和6年度

HEARTISデータ等を用いた播磨姫路圏域における救急医療の実態把握

【神戸大学大学院医学研究科 AI・デジタルヘルス科学分野
(連携課：健康福祉局地域医療課、消防局救急課)】

研究の目的（背景・課題・意義）

背景：姫路市を含む播磨姫路圏域では、救急搬送が困難となる事案が頻発しており、他地域と比較しても早期搬送の実現が遅れている状況である。これにより、地域住民の救急医療へのアクセスが制限され、医療提供の質の低下が問題となっている。

課題：救急搬送の遅延として、医療資源の地域間の偏在や、小児や循環器等の疾患、休日や夜間など特定の時間帯による影響が考えられる。しかし、播磨姫路圏域の搬送遅延に関連する要因を明らかにするための定量的分析は、これまで行われてこなかった。

目的及び意義：本分析研究の目的は、救急医療体制の効率化と最適化を図り、救急搬送迅速化の実現に資する実態を把握することである。救急搬送が困難なメカニズムを探索し、エビデンスに基づく政策立案に資する情報を提供することで、地域住民に対する医療サービスの質向上に寄与することが期待される。

研究内容・主な実施計画



- ◆ **分析データ：**姫路市が保有するHEARTIS(播磨姫路救急搬送システム)データを利用。
- ◆ **分析内容：**倫理委員会*の承認を得た後、データ分析を実施する。
 - ①地域別、病院別の搬送困難患者の実態について明らかにする。
 - ②搬送困難事案の発生要因について探索的に検討する。
- * 倫理的配慮：研究は人間を対象とするため、神戸大学の倫理委員会からの承認後に実施する。
- ◆ **政策提案と評価：**
分析結果について、11月に中間発表を行い、姫路市健康福祉局地域医療課、消防局救急課からのヒヤリングを踏まえて政策提案を含めた最終報告を翌年3月に行う。その後、学術誌への投稿や国内外の学会等で発表を予定。